令和６年度使用教科用図書採択に係る教育委員会会議録

１．開催日時　　令和５年７月２６日（水）　午前９時３０分より

２．出 席 者　教　　育　　長　奥村　恒也
教育長職務代理者　田中　妙子
委　　員　山口　　健
委　　員　中瓦　智子
委　　員　細野　政成
（事務局）
教育参事兼学校教育課長　筒井　幹次
生　涯　学　習　課　長　日比野克彦
学校教育指導主事　尾崎　　淳
学　校　教　育　係　長　玉川　勇気

３．議事

教育長　　議案第 20 号　令和 6 年度使用教科用図書の選定について、事務局の説明を求めます。

学校教育係長　　はい。まず私から説明をさせていただきます。
議案書は 2 ページです。
議案第 20 号　令和 6 年度使用教科用図書の選定について、4 月 28 日に行われました教育委員会第5回定例会におきまして岐阜県教科用図書可茂地区採択協議会の設置について承認を受け、7 月 4 日に教育参事、田中委員が可茂地区採択協議会に参加し、令和６年度に使用する教科用図書の選定を行い、採択原案が、資料綴の、２ページの方が小学校、３ページが中学校です。採択原案はこのとおりとなりました。御嵩町においても、可茂地区採択協議会の選定のとおり令和６年度に使用する教科用図書を選定したく、本議案を提出するものです。
可茂地区採択協議会における選定理由等につきましては、教育長から説明をさせていただきます。

教育長　　はい。長時間になるかもしれませんが、よろしくお願いいたします。
令和６年度使用の小学校教科用図書、以降教科書と呼ばさせていただきますが、この採択換えの年になります。可茂地区採択協議会の採択案を受けて、御嵩町の子どもたちの使用する教科書を採択していただくことになります。全部で 13 の種目、国語、書写、社会、地図帳、

算数、理科、生活、音楽、図工、家庭科、保健、英語、道徳、それぞれの種目について、可茂地区採択協議会における調査結果を参考にしていただき、協議をお願いします。

可茂地区採択協議会では、各種目の調査員が国の検定を通過した全ての教科書会社の教科書について、お手元の資料、評価表をお配りさせていただきましたが、これを 1 枚めくっていただきますと、最初に国語が載っていますが、一番左の列に、学習指導要領、岐阜県教育振興基本計画、印刷製本等の 3 つの調査項目を挙げています。さらに、それぞれの調査項目の中に着眼点ということで、3 つずつの視点が設けてあります。この 3 つの調査項目と、9 つの着眼点から調査研究を行っています。そして、可茂地区の児童の現状や実態、教員の経験年数の構成に応じた適切な教科書の採択原案を示しています。それが、資料綴の 2 ページにあります採択原案です。その原案を参考に、各市町村で使用する教科書について協議し、議決していただくのがこの議題ということになりますので、よろしくお願いいたします。

説明につきましては、各種目について順番に説明をさせていただき、質疑を経て採択について議決を行っていただくという手順で進めていきます。

種目ごとに数者の教科書がありますが、その全ての教科書の調査研究の内容について説明していくには多くの時間を要しますので、進め方としては、地区の調査研究結果においてその評価の上位 2 者、評価表の◎は特に優れている、○は優れているという評価になりますが、これを参考にして、上位 2 者について説明をさせていただき、協議及び議決を行っていただくという流れで行いたいと思います。

御嵩町の子どもたちの実態として、個々の学力の幅が大きいことや特別な支援が必要な子どもたち、外国人の子どもたちが多いということがあります。また、経験年数の少ない教員が御嵩町に多いということもあります。これらは御嵩町だけでなく可茂地区において共通しています。こうした御嵩町の児童や教員の実態から、可茂地区における調査研究の評価を参考にしてよいと判断するものです。学習の見通しが持ちやすいということや分かりやすさという観点でのウエイトが大きいと考えています。よろしくお願いいたします。

それでは、国語から始めさせていただきます。

国語は、東京書籍、教育出版、光村図書の３者があります。研究調査による上位２者は、東京書籍と光村図書です。可茂地区で採択された教科書は、光村図書です。

国語では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の言語活動の充実を大切にしています。「書くこと」の学習で、例えば６年生の教科書を比較してみます。東京書籍、光村図書、どちらも、提案書、パンフレット、意見文を書く題材が位置付いています。

東京書籍では、６年生を例にとってみますと、情報の扱い方に関する学習「情報のとびら」と、関係性を持たせながら書く活動が位置付けられていることが特徴としてあげられます。書くために、情報の収集、吟味、整理、活用の工夫など、多岐にわたる内容が組み込まれています。例えば、意見文を書く学習では、テーマが設定されて、それに関連する多くの情報が提示されています。これらの情報を分析したり新たな情報や資料を取り込んだりしながら説得力のある意見文を書くという学習活動が仕組まれています。

次に光村図書を見てみますと、子どもたち自身がテーマを決めたり、「読むこと」の学習とつないで位置付けたり、例えばここは「日本の魅力を書こう」というのがあって、日本の文化について書かれた本を読んでみましょうという学習があって、それに続けて日本の文化について意見文を書きましょうという流れになっていたり、それから子どもたちの興味や関心を引き付ける題材、これは「パンフレットを作ろう」という題材ですが、自分たちの好きなテーマ、ここでいうとおすすめの音楽といった形で例が載っていますが、そうしたでーまを自分で決めて、題材を構成しているところが特徴です。テーマを決めたり、構成を考えたり、目的に沿って使用するとよい言葉の例示や、完成した文章の例が掲載されていて、作成の手順について、ていねいなガイダンスが示されています。子どもたちにとっても指導する教師にとっても見通しが持ちやすい構成になっています。

次に、デジタル学習のコンテンツについては、東京書籍では、コンテンツの数が非常に多く、モデル動画や漢字などのワークシートなどが準備されています。

光村図書では、動画、音声、写真など、目や耳で触れる教材が非常に多いことが特徴です。視覚や聴覚を通してより多くの子どもたちの学習への興味関心や理解を図るうえで有効に活用できるように工夫されています。同時に、特別な支援が必要な子どもたちにとっての学びの多様性という点からも活用の幅が広いといえます。

以上のように、学習への見通しが持ちやすく、分かりやすい、また、幅広い学習者により対応しやすいなどの点から、御嵩町の子どもたちにとっても光村図書がより適していると考えられます。

以上国語について説明をさせていただきました。質問等ありました

らお願いいたします。

細野委員　光村図書は継続できていますよね。

教育長　ずっと、長く光村図書を使っています。
１回の改訂で４年間使う予定ですので、前回この４年間も使っていますしその前も使っています。

細野委員　先生の反応はどうですか。

教育長　学習に対して見通しが持ちやすいとか、指導のしやすさを感じてもらえているようです。

細野委員　子どもの反応はなかなかわからないか。比較するわけにいかないので。

教育長　教科書で比較することは難しいですが、自分が担任をやっていた頃にも使っていましたが、良い教材が使われているように思います。物語文も子どもたちの心に響いたりとか、読み深めてみたいと思ってもらえるような教材を選定しているということがいえると思います。

細野委員　附属する参考書や問題集なども使用するのか。

教育長　あるのは、漢字ドリル。これに付随する参考書や問題集などは特に扱ったことはないです。

細野委員　教科書選定は大変難しいですね。先生のやり方によっていろいろな使い方があるので、先生もしっかり読み込んでいただいて、どういう指導を教科書が願っているかをしっかり把握した上でやっていただくと良いと思います。

教育長　ありがとうございます。ほかによろしいでしょうか。

（質疑なし）

裁決は最後に行いますので、今のようにご感想やご質問等いただければありがたいです。

では次に、書写について説明します。
書写は、東京書籍、教育出版、光村図書の３者です。
どの教科書も「文字を書く技能」や「文字や言葉の知識」に関する教材がバランスよく配分されています。上位２者は、東京書籍と光村図書です。可茂地区で採択された教科書は、東京書籍です。
まず、姿勢や鉛筆や筆の持ち方については、東京書籍、光村図書ともに、右手で書く人、左手で書く人の写真と動画が示されています。東京書籍は、今見ていただいているように、見開き２ページを使って鉛筆の持ち方を写真で掲載しています。これは毛筆をはじめて使う３年生の教科書でも同様の構成となっています。
次に、「気づく」ことや「考える」といった子どもたちの主体的な学びについて見てみると、例えば、４年生の毛筆で、字の形の組み立て方では、東京書籍は、お手本に「竹笛」を取り上げて、「竹」と「竹かんむり」の字形に気づき、上下のバランスのとり方を考えさせる構成としています。光村図書では、手本に「雲」という１字を取り上げて、雨かんむりの字形のバランスについて考えさせる構成としています。先ほどの「竹笛」やほかにも「土地」など、実際に書いて比べながら、字の上下のバランスや左右のバランスを捉えられる工夫、東京書籍のほうがより工夫されていると言えます。
どちらの者もそれぞれの工夫やよさがありますが、特別な教育的ニーズのある子どもや外国人の子どもたちによりに分かりやすい教科書であるかの観点から、御嵩町の子どもたちにも東京書籍の方がより適していると考えられます。
今ちょうど、教科書に載っているＱＲコードから動画を出しますが、鉛筆の持ち方、右手も左手もあります。

【動画再生】

このように、左右どちらで書く子に対してもデジタルコンテンツや写真で対応できるといった配慮がなされています。
書写については以上です。ご意見等ありましたらお願いいたします。

細野委員　よろしいでしょうか。
授業を見させていただく中で、子どもの鉛筆の持ち方が気になる子がいる。握っているような子もいる。それで書けるのかと思ってしまうこともある。先生がそれぞれ指導してくれてはいると思いますが、先生には苦労をかけますが、やはり鉛筆をきっちりと持つ、そういう

指導を強くしていってほしい。僕の感想です。

教育長　おっしゃるとおり、私たちも授業を見させていただく中では気になってくる部分です。低学年の時に一生懸命指導をしますが、途中で崩れていったりとか、入学する前までに癖ができていってしまっている場合もあります。なので、もっと早い段階から、家庭にもお願いをしていくようなことも必要だと思ったりもします。
学校の方でもこうした資料をもとにしっかりと指導していくようにします。

細野委員　よろしくお願いします。

教育長　ほかによろしいでしょうか。

（意見なし）

では、次に、社会に進めさせていただきます。
社会は、東京書籍、教育出版、日本文教出版の３者です。
社会科では、公民としての資質・能力の育成を目指しており、情報を適切に調べ、まとめる技能を身に付けること、多角的に考え、選択・判断する力、地域に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を持てるようにすることを大切にしています。
上位２者は東京書籍と日本文教出版です。可茂地区で採択された教科書は、東京書籍です。
岐阜県と関わりのある教材としては、どちらの教科書も５年生で低い土地のくらしの単元で海津市が取り上げられています。このうち、東京書籍では、この単元の中で、社会科の学習の進め方の解説が位置付いています。海津市をもとにしながら、学習の深め方、これが学習できるようになっているということです。こうしたことを関連づけながら、低い土地、輪中に暮らす人々の歴史や工夫、努力がより深く学ぶことができるように構成されています。
次に、子どもたちにとってより分かりやすい言葉遣いや表現という観点から両者を比較します。
６年生の歴史の学習で源氏と平氏の題材がありますが、日本文教出版は、有力な武士として平氏と源氏が出てきたことを前提に、平氏と源氏についてそれぞれに解説しながら両氏の関係を示し、壇ノ浦の戦いまでをまとめて紹介しています。東京書籍は、武士団の起こり、その中から天皇を祖先とする源氏と平氏が勢いを増してきたこと、両氏

が東西に勢力を伸ばし、互いに争うようになっていったこと、その結果、平氏が源氏を抑えて実権を握るようになっていったこと、平氏が思うままに政治を動かすようになり、これに対する貴族や武士の不満が高まり、源頼朝が兵をあげ、源義経が壇ノ浦の戦いで平氏を滅ぼし、源氏による鎌倉幕府が誕生していった、というように、時間的なストーリーの中で源氏と平氏の関係が紹介してあり、歴史の流れや源氏と平氏の関係が読み物を読む感覚で、とらえやすい構成になっていると言えます。

以上のように、子どもたちにとって学びやすさやわかりやすさという点から、御嵩町の子どもたちにも東京書籍がより適していると考えられるのではないかということです。

ご意見等ありましたらお願いいたします。

細野委員　特に社会科においては御嵩町の子どもは御嵩町のことを知らなければいけないので、そういう副読本が整備されていると聞いていますが、次の年も副読本を使って学習していくことになりますか。

教育長　はい。そうです。社会科の学習と並行して副読本を活用した学習を行っています。

細野委員　副読本はどこで編集しているのか。

教育長　御嵩町、教育委員会で編集しています。各学校から先生方にも集まっていただいて、編集委員会を組織して編集しています。

細野委員　それは大変なこと。ごくろうさまです。

教育長　有効活用に努めてまいります。

その他、よろしいでしょうか。

（意見なし）

なかなか説明がすべてを網羅しきれず、端々の説明となってしまいますが、ご質問等ありましたらお願いいたします。

次に地図帳に移ります。

地図帳は、東京書籍と帝国書院の２者です。可茂地区で採択された地図帳は、帝国書院です。

地図帳は３年生から使用します。以前は４年生からでしたが、３年生での導入は、今回の指導要領の改訂からとなります。ですので、初めて地図帳を手にする３年生にとって、抵抗なく地図学習に向かうことができるような配慮がどのようになっているかについて、まず見ててみます。

まず東京書籍は、7 ページから 14 ページまでの、8 ページを使ってイラストやデジタルコンテンツによって子どもたちが興味関心を持てるように工夫されています。

また、帝国書院は、7 ページから 20 ページ、14 ページを使ってイラストやデジタルコンテンツによって、よりていねいに子どもたちが興味関心を持てるよう工夫されています。例えばデジタルコンテンツでは、地図記号のクイズがあります。

岐阜県がどのように紹介されているかについては、東京書籍では、動画、イラストの 11 点、それから模式図等で紹介されていて、帝国書院では、イラスト 12 点やデジタルコンテンツ、岐阜県の紹介のところをお見せしますが、岐阜県の地形の様子や土地利用の様子、それから主な農水産物、工業、そして民俗文化や先人、こういったデジタルコンテンツが非常に充実しているということです

それから、帝国書院の方は、中山道や主な街道の経路も紹介されていて、地理だけでなく歴史学習でも活用できるよう工夫されています。

以上のように、子どもの興味関心、学びやすさ、学習への活用の幅という点から、御嵩町の子どもたちにとっても帝国書院の地図がより適しているといえるのではないかということです。

よろしいでしょうか。

（意見なし）

では、続いて算数についてお話をさせていただきます。

算数は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館、日本文教出版の６者です。

算数科では、見方や考え方を働かせ、数学的に考える児童の育成を目指しています。

6 者のうち、上位 2 者は、東京書籍と大日本図書の２者です。可茂地区で採択された教科書は、大日本図書です。

2 年生のたし算の筆算の学習で両者を比較します。まず、東京書籍は、83＋46 の十の位に繰り上がりのある筆算について図を並列させて考え方や技能について学び、次の段階、76＋58 の一の位にも繰り上が

りのある計算の筆算は筆算の仕方のみを提示しています。次に大日本図書は、同じように十の位に繰り上がりのある 85＋42 の筆算と、それから一の位にも繰り上がりのある 85＋47 の筆算のどちらの計算も図を並列させながら筆算の方法が示されている構成となっていて、ていねいな指導が行えるような工夫といえます。

次に、単元の導入を見てみます。例えば４年生の面積の単元では、東京書籍は、花壇の設計図を作ろうという活動から導入されています。一方、大日本図書は、シートの広さ、部屋の広さ、花壇の広さなど、生活場面を想起させながら、図やイラストを通して単元で身に付けさせたい見方や考え方へのアプローチがされています。こうしたことでこれからの学習への見通しを持ちやすくなるという工夫となっています。

次に、プログラミング教育、新しく入ってきた学習ですが、これについて見てみますと、東京書籍は、4 年生以上に位置付けられています。今見ていただいているのは 6 年生の教科書の巻末にあるプログラミング教育の学習ページです。大日本図書は、全学年に位置づいています。1 年生の教科書を見てみますと、「プログラミングに挑戦」ということで、命令カードを使ってゴールを目指そうという内容で、「1 進む」とか「右へ曲がる」とかそういうカードを使って命令を出して動かすというような体験を 1 年生から行います。そして 6 年生になりますと、「形が同じ図形を整理するプログラムを作ろう」ということで、前の学習が図形の学習になっていて、大日本図書の特徴は、このように関連する単元の終わりに位置付けられ、単元の学びと繋いで学習が行えるような構成の工夫となっています。

以上のように、具体的な操作や、身近な生活場面とつなげながら子どもたちが技能を身に付けたり、考えを深めたりする構成の工夫や、発達段階に応じた系統的な学習内容の配列などの点から、御嵩町の子どもたちにとっても大日本図書が適していると考えられます。

以上になります。何かありましたらお願いします。

（意見なし）

では続いて、理科について説明させていただきます。

理科は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館の５者です。

理科では、理科の見方や考え方を働かせた科学的な探求や、自然に進んで関わり、見通しを持った観察、実験を行い、その結果の考察ができることを大切にしています。

上位２者は、東京書籍と啓林館です。可茂地区で採択された教科書は、啓林館です。

この２者について、まず、４年生の「地面を流れる水のゆくえ」で比較します。どちらの教科書も実験の手順や考察の視点を丁寧に示しています。水のしみこみ方と土の実験方法について見てみると、東京書籍は、「校庭の土」と「砂場の土」を比較実験しているのに対して、啓林館では、それに加えて「砂利」についても比較実験をしています。土の粒の大きさと水のしみ込みやすさの関係についての考察をより確かなものにできるような工夫として考えられています。

また、水の流れ方の学習から水のしみ込み方と土の学習へのつながりを見てみます。東京書籍では、まず、水の流れ方について観察をする学習があって、それのまとめ、高い方から低い方へ流れるといったまとめがあり、改めて校庭の様子を見て、その様子から水が浮いているところと、水が残っていないところがあるねといったところに目を向けて、水のしみ込み方について考えていこうという構成になっています。次に啓林館では、水の流れ方のまとめとして、同じように高い方から低い方へとまとめられているのに続いて、「もっと知りたい」というところで、水たまりのできているところとできていないところに視点をあて、何が違うのか、土に違いがあるのだろうかと、新たな課題へとつながるように構成されています。この特徴として、ひとつの学び、水の流れ方の学びから、次の新たな学びへの課題を見出していく力を身に付けさせていく工夫が啓林館にはあるということです。

同様の工夫は、東京書籍でもあります。単元によっては、「次の問題を見つけよう」というもの、例えば空気の膨張の実験をした後に、他のものも空気と同じように温度によって体積が変わるのか考えてみようというような次への課題に繋がりはありますが、位置付けについては、啓林館のほうが多く、思考を繋いでいく、もっと知りたいという位置付けが多いというところに特徴があるといえます。

もうひとつ、考察についての比較をします。例えば、３年生「風の力のはたらき」ですが、東京書籍では、どういう実験かというと、帆をつけた車に風をあてて、どこまで動いたかという実験です。３回の実験を行い最も遠くまで動いた数値から考察を行うという構成になっています。弱い風で 3 回動かして一番遠くまで動いたのが 3m70cm、強い風で 3 回動かして一番遠くまで動いたのが 5m30cm、ここから考察を行うという流れになっています。啓林館を見てみますと、3 回同じように実験をしますが、3 回の全ての個人の結果とさらにクラス全体の結果をグラフにまとめて表して、より多くのデータから考察することに意識が向けられた構成になっています。考える力の育成におい

て、啓林館はよく工夫された構成となっているといえます。
　以上のように、子どもたちの思考の繋ぎ、連続性や考察の力を身に付けさせる構成の工夫という点から、御嵩町の子どもたちにとっても啓林館が適していると考えられます。
　以上です。理科について何かありましたらお願いします。

　（意見なし）

　よろしいでしょうか。
　では続いて生活科について説明をさせていただきます。
　生活科は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、光村図書、啓林館の６者です。
　生活科では、具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくことを目指しています。
　上位２者は、東京書籍と光村図書です。可茂地区で採択された教科書は、東京書籍です。
　２者の教科書について、下巻、これは主に 2 年生が学ぶ内容になりますが、これのおもちゃづくりの単元で説明します。光村図書では、写真と吹き出しを使って自分の作ったおもちゃがよりよく動くようにするための工夫、見通しを持てるように構成しています。もっと高く飛ばすにはどうしたら良いとか、これを外してみようかなといった写真、吹き出しが載っています。東京書籍では、イラストと吹き出しを同じように使いながら、工夫するための見通しを持てるような構成になっています。特徴は、「学びをふかめる」というところです。これによって、どのように考えていくとよりよくできるのかについて「考え方」の例を具体的に示してあります。輪ゴムをたくさんつけると高く飛ぶかな、でも輪ゴムがつぶれちゃうよとか、そういった吹き出しを繋ぎながら、いろいろと工夫する、考える視点というのが示されているということです。子どもたちにとっても、教師にとっても見通しを持ちやすい構成になっているといえます。
　次に、自分たちの町のすてきなところを伝えようという単元を見ていただきます。東京書籍では、だれに、何を、どのように、という視点を常に大切にしながら、出口を意識しながら学習を進めていけるようにイラストの構成が工夫されています。ちょうど黒板の板書のような形で、誰に、何を、さらにどうやってと付け加えられて、発展的に、視点が明確にされて学習が進められる、そういった工夫となっています。一方、光村図書では、どのようにまとめると伝わりやすいかとい

うところに重点が置かれて実際の写真等を使いながら、いくつかの例を示して具体的にイメージできるような構成となっています。
　以上のように、子どもたちが見通しを明確に持ちながら主体的な学びを進めていくための構成や教師の指導における扱いやすさという点から、御嵩町の子どもたちにとっても東京書籍が適していると考えられます。
　以上です。何かありましたらお願いします。

細野委員　教科書にあるような実験的なことは、先生が授業で実際にやられるんですか。

教育長　理科も生活科も同じですが、実験は準備をしてできるようにしていますし、事前に教材研究の中で実験装置を作って実際にやってみて、子どもたちが安全にできるような準備をして臨むようになっています。

細野委員　実際に子どもたちが実験をする機会もありますか。

教育長　もちろん行います。
　ただ、コロナ禍で、実験となると集まって行うことになるので、ここ２、３年は、自分たちでグループを作って実験を行うという形式をなかなかとれずに、どちらかというと示範実験の形で教職員が手元で示して子どもたちに見せる、そういう授業が多かったですが、これからはもっとできるようになってくると思っています。

細野委員　子どもが自分でやるのが一番良い。

教育長　ありがとうございます。
　続けていってよろしいでしょうか。

（委員了承）
　次に、音楽に入らせていただきます。
　音楽は、教育出版と教育芸術社の２者です。
　音楽では、表現と鑑賞の二つの領域を通して、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力を育成していくことを目指しています。
　可茂地区で採択された教科書は、教育芸術社のものです。
　両者をまず、５年生の「和音のひびき」で説明します。教育出版は、

１度の和音、ドミソの和音です。それから、４度の和音、これはドファラの和音です。それから５度の和音、これはシレソの和音です。この３つの和音に合う旋律を作る学習で、子どもたちは、リズムを作る活動、旋律を作る活動、友達の作った旋律とつなげていく活動のステップを踏んで、一人一人の発想や仲間との協働の学びの楽しさを味わうという構成となっています。教育芸術社は、１度の和音、４度の和音のほか、５度の７という和音、これはシレファソの和音です。これに合う旋律を作る学習で、ワークシートを活用しながら学習を進められるよう工夫されています。リズムはあらかじめ示されていて、和音に含まれている音を選んで旋律を作る学習をします。音を選ぶことと、音の上がり下がり、波打ったりというようなイメージを、ワークシートに書き込みながら学習を進めていきます。実際に作った旋律はＱＲコードを読み取ると、ワークシートが出てきて、音を入力すれば、自分の作った旋律が再生されるようになっています。

（旋律を作成し再生）
（委員より「すごいね」の声あり）

このように、タブレット端末を活用して、子どもたちがいろいろ工夫をしながら授業を展開していくよう工夫されています。すぐに、作った旋律の確かめをすることができたり、何度でも作り変えられたりすることができます。音楽に苦手意識をもつ子どもたちも、無理なく、楽しみながら旋律を作る学習に取り組めるように工夫されています。

次に４年生の和楽器「箏」の教材から説明します。

教育出版は、「さくらさくら」の学習と関連させて、「さくら変奏曲」の鑑賞を通して箏の学習に興味関心を持てるよう配慮されており、さらに、発展的な学習として箏を演奏する活動につないでいます。教育芸術社の方も、「さくらさくら」の学習と関連させて「日本の音楽でつながろう」という題材で箏を扱っています。６ページに渡って箏の演奏や三味線などの他の和楽器、さらに、日本の音階のよさを味わう学習にまで発展させています。

以上のように、子どもたちが興味関心を持ちながら音楽に親しみを持ち、学習できるような構成や工夫と点から、御嵩町の子どもたちにとっても教育芸術社のほうがより適していると考えられます。

何かありましたらお願いします。よろしいでしょうか。

（意見なし）

教科書も変わってきています。次に、図画工作です。

図画工作は、開隆堂、日本文教出版の２者です。

図画工作では、表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質や能力を育成することを目指しています。

可茂地区で採択された教科書は、日本文教出版です。

それぞれの教科書について説明します。まず、「学習のめあて」について見てみます。どちらの教科書も全ての題材に「学習のめあて」が位置付いています。開隆堂は、３つの観点、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力、を分かりやすい表現で示しています。日本文教出版も同じく３つの観点がありますが、それを 5 つの項目に細分化し、分かりやすい表現で示しています。学習のめあてを詳しく表すことで、子どもたちも教師も「どんな力を身に付けるのか」、「どんな力が身に付いたのか」など、目指す姿や評価の観点が把握しやすくなります。

次に、題材の系統性、繋がりですが、これについて 3、4 年生の木を使った工作の題材で、これを見てみます。開隆堂では、上の教科書、3 年生で学習する内容になりますが、釘を使ってビー玉転がしのコース作りの題材が位置付いています。さらに、のこぎりの使い方、それから、下の教科書、4 年生の内容ですが、今度はのこぎりで切った板材を組み合わせて作る工作の題材、こうした繋がりとなっています。日本文教出版では、上の教科書でくぎの打ち方、下の教科書ではのこぎりの使い方を習得する題材が設定されています。この２つの題材は、例えばくぎの方を見ますと、とにかくどんどん好きなようにくぎを打って、その中から何かの形を創造していく、そういう学習になっています。また、下の方では、とにかく板や角材を自由に切ってみて、切り取った材料を好きなように組み合わせて自由に形を創造していくという学習になっています。子どもたちが、自由に、失敗を怖れず、くぎを打つこと、のこぎりを使って切ることを楽しみながら習得できるよう、意図的な構成となっています。

さらに、下の教科書の方ですが、出来上がりをイメージして材料を整え、組み立てる題材が発展的に位置付けられています。子どもの発達段階に沿った題材の配列がよく工夫されているといえます。

以上のように、学習への見通しの持ちやすさや、子どもたちの興味関心を引き出し、伸ばす構成の工夫という点から、御嵩町の子どもたちにも、日本文教出版がより適していると考えられます。

以上です。よろしいでしょうか。

（意見なし）

では、家庭科に入ります。

家庭科は、東京書籍、開隆堂の２者です。

家庭科では、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にする心情を育み、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てることを大切にしています。

可茂地区で採択された教科書は、東京書籍です。

「いためる調理」を例にして両者を説明いたします。この題材では、「野菜炒め」が調理実習の献立として取り上げられています。まず、実習の計画についてみると、東京書籍では、調理計画カードの具体的な例を掲載して、各自が計画を作成し、手順の確認やためし実習なども取り入れながら、見通しを持って実習に向かうことができるように構成されています。開隆堂は、イラストを添えて、イメージを持ちながら計画を立てる視点が示されています。

次に作り方を見てみます。東京書籍では、材料を切る段階の説明で、実際の大きさの写真を同じページに掲載して、具体的な大きさのイメージを持ちやすいように工夫しています。開隆堂は、巻末に実際の大きさの写真を掲載して方眼紙と重ねてイメージが持てるように工夫しています。

次に、調理のポイントを見てみますと、東京書籍は、野菜の切り方、炒める順序、火加減、味付けと調理の工程に沿ったポイントが示されています。開隆堂は、おいしく炒めるポイントということで、水切り、炒める順序、火加減の３点が示されています。

最後に、安全に調理するために注意事項の表示について見ると、東京書籍の方は、調理工程の中で、そのときに気をつける事項を調理の説明を記載している場所と同じところに掲載して、調理のどの段階で、何に気をつければよいか、分かりやすくとらえられるよう工夫されています。開隆堂は、見開きページの左下に気をつける事項をまとめて掲載しています。

以上比較をしてきましたが、調理に不慣れな子どもたちや外国人の子どもたちにとっても、教科書をもとに、作り方や材料の具体的なイメージ、気をつけることなどが分かりやすい教科書として、御嵩町の子どもたちにとっても、東京書籍がより適していると考えられます。

よろしいでしょうか。

（意見なし）

次に、体育科の保健です。

保健の教科書は、東京書籍、大日本図書、大修館、文教社、光文書院、学研の６者です。

保健の学習では、保健の見方、考え方を働かせ、課題を見つけ、その課題解決に向けた学習過程を通して、生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成することを大切にしています。

上位２者は、東京書籍と光文書院です。可茂地区で採択された教科書は、東京書籍です。

「けがの防止」の題材で両者を比べてみます。

東京書籍は、「けがの原因と防止」で、４つのステップ、「気づく・見つける」、「調べる・解決する」、「深める・伝える」、「まとめる・生かす」というステップで学習の流れが構成されています。この題材では、「調べる・解決する」の内容が、2-1、2-2、2-3 というように、さらに細かいステップを踏めるような構成になっていて、ていねいな指導が可能となるよう工夫されています。また、東京書籍は、章全体の構成が一目でわかるようになっていて、目標が示され、それから右下に「つなげよう」とありますが、他の教科との関連についても捉えられるように示されていて、見通しを持って学習を進める工夫がされています。

次に光文書院ですが、「けがや事故の原因」と「けがの防止」を分けて小単元が組まれています。そしてそれぞれに「見つけよう」「考えよう」「調べよう」「話し合おう」「学んだことを生かそう」という学習活動が位置付いています。それぞれの学習課題が明確に示されているところが特徴でもあります。また、章全体の構成は、章のとびらに小単元名を１から５まで示して、キャラクターの会話を通して学習の見通しを持てるような工夫になっています。

それから内容について見てみます。けがや事故の防止について考える学習では、光文書院では、「危険の予測」「安全な行動」の観点を示しています。東京書籍では、「ひそんでいる危険」というものを人の行動、環境、起こりそうな事故という視点、それからそれに対する対策を人の行動と環境という観点を示し、より具体的に考えられるように工夫されています。また、タブレット等を使って学校内の危険や危険防止の対策をまとめ伝え合うというＩＣＴを使った活動へのアプローチも位置付けられています。

【デジタルコンテンツ再生】

これは、教室の中で子どもたちが「ここは危ないよ」というところを探して見つけるというＱＲコードを使ったコンテンツです。クイズ形式になっています。例えば、黒板の上に定規があるのを危ないよねとポンと押すと、正解と出てきます。このようにクイズ形式で取り組みながら、危険を察知したり、防止することができるというコンテンツ、工夫が東京書籍にあるということになっています。

以上のように、児童の思考の流れや、考えるきっかけ、具体的な視点、学習活動の広がりなどの点から、御嵩町の子どもたちにとっても、東京書籍がより適していると考えられます。

よろしいでしょうか。

（意見なし）

では、次に英語に入ります。

英語は、東京書籍、開隆堂、三省堂、教育出版、光村図書、啓林館の６社です。

英語では、コミュニケーションで活用できる基礎的な技能、自分の考えや気持ちを伝え合うことのできる基礎的な力、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することを大切にしています。

上位２者は、東京書籍と開隆堂です。可茂地区で採択された教科書は、東京書籍です。

２者に共通する「あこがれの人を紹介する」単元で説明します。MY HERO という単元になっています。

開隆堂は、５年生の Lesson8 で扱われており、単元では、段階的に 4 つの技能、これは読む、書く、聞く、話す、この 4 つの技能を身につけられるように工夫されています。「話すこと」については、表現に慣れ親しむ活動や伝え合う活動が設定されています。表現を増やしながら単元の終末の発表に向かう構成になっていて、また、単元末には、発表したことを書く活動があり、５年生から英文を書く力を育成できるよう工夫されています。

東京書籍は、５年生の Unit8 で扱われています。単元のはじめに学習者である子ども自身のあこがれる人を問い、その後の学習活動も、学習の主体者である子ども自身があこがれる人の紹介、あるいはそれを伝え合うといった活動へと発展させていく構成になっています。

教科書内の登場人物ですが、開隆堂の方は、教科書内の登場人物教科書に出てくる子どもたちがあこがれる人が出てきて、その人たちのことをどうやって紹介していこうという流れになっています。一方

で、東京書籍の方は、子どもたち自身が「こんな人素敵だな」と、自分があこがれる人を紹介していくことを軸に学習が展開されています。それから、東京書籍の「書くこと」については、年間を通じて、発音と文字をリンクして書く活動が位置付けられており、段階的に習得できるよう工夫されています。

以上のように、東京書籍は、開隆堂と比較して、より、指導の重点が明確であり、学習者の主体的な学びを重視しながら身に付けたい力を段階的にバランスよく育成できる構成となっているといえます。御嵩町の子どもたちにとっても、東京書籍がより適しているといえます。

細野委員　英語は今は何年生から始めるんですか。

教育長　5年生からですが、外国語活動という内容で低学年から取り組んでいます。教科書を使った授業としては5年生からです。

細野委員　週に何時間行うのか。

教育長　週に1時間です。

細野委員　英語は先生の指導力が大変難しい。ある程度専門的な能力がないと、正しい英語を正しい方法で教えるというのがなかなか難しいと思いますが、先生方の指導力としてはどうですか。

教育長　ネイチャーな発音はなかなか難しいです。ＡＬＴの先生を招いて授業に入ってもらって会話をしたりとか、あるいは教科書のＱＲコードからデジタルコンテンツを活用したりします。

少しデジタルコンテンツを紹介します。

【デジタルコンテンツ再生】

このようなものも使いながら、授業をできるように、また、今は英語でデジタル教科書も導入しています。そこも含め、もっといろいろと動画などでコミュニケーションを行う幅が広がるような教科書となっていますので、それらを活用して、どの先生も英語が楽しく子どもたちと勉強できるような、フォローができるような構成となっています。

細野委員　　１週間に１時間ではなかなか力がつかないので本当は増やした方が良いと思いますが、他の教科とのバランスがある。これからの社会で生きていくためには、英語は必須であると思う。読むこと、書くことも必要だが、最終的には英語で自由に話せる能力が絶対に必要。そういうことも教育委員会としても考えてほしい。外国の方、ＡＬＴの方も常駐しているわけではないので、もう少し自由に入ってもらって、生きた英語に触れさせるのが必要だと思います。

教育長　　ありがとうございます。その他、よろしいでしょうか。

（意見なし）

では、最後に道徳をお願いいたします。

道徳は、東京書籍、教育出版、光村図書、日本文教出版、光文書院、学研の６者です。

道徳では、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育むことを大切にしています。

上位２者は東京書籍と日本文教出版です。可茂地区で採択された教科書は、日本文教出版です。

この２者について、子どもたちが考えを深めていくための学習へのアプローチについて比較します。

東京書籍では、教材の終わりのところに、「考えよう」「つながる・広がる」を位置付けて、考えたり話し合ったりする視点が示されています。また、「問題を見つけて考えよう」を複数の教材に位置付いていて、それをもとにしながら、気付く、考える、広げる、深めるという課題解決学習への問いが位置付けられていて、子どもたちの思考の深まりを促していく構成となっています。

日本文教出版では、東京書籍と同様教材の最後のところには、「考えてみよう」「見つめよう・生かそう」を位置付けて、考えたり話し合ったりする視点が示されています。また、「心のベンチ」というページを複数配置して、学習したことを他の教科と関連付けてより深められるよう構成になっています。例えば、「情報について」という部分の心のベンチは、いじめと法律ということで、社会科の学習等との繋がりを意識した構成がとられていることが特徴です。

それから、道徳の学び方の多様性について見てみます。東京書籍の６年生では、辻井伸行さんをとりあげ、自分の夢に向かって頑張って

いく、資料をもとに学習をします。それで、学習の繋がりの中で、将来の夢を語ろうということで、教材に関連させて将来の夢をグループで語り合う活動が位置付いていたり、それから、マンションの部屋の住人のピアノの音、騒音に関する権利や主張、こういったものを扱う教材では、登場人物の役割を演じてそれぞれの立場になって考えてみようということで、いろいろな考え方があることを子どもたちが学べるように、考えを深める活動が位置付けられています。

日本文教出版の６年生では、車いす、妊婦さん、けがをした人など、思いやりの学習の教材を扱った後に、実際に車いすを体験してみて感じたことを話し合ってみようというように、体験することを通して考えを深めるという学習の方法とか、先ほどの東京書籍でもありましたように、登場人物を実際に演じて考えを深める学習になっています。

そしてもうひとつ、多様な場面を想定して考えること、正しい判断として、急に飛び出してぶつかりそうになったときや道を聞かれたとき、インタビューを受けたときとか、大人の人からお酒を勧められたときなどの場面が紹介されていて、場面を自分で選びながら、その時にどういう行動をしたらよいのかというのを考えて発表してみようという学習活動です。それから、グループで話し合ってみようということで、いじめに関連した内容ですが、いろいろな立場のいろいろな意見があり、自分がどういった立場に近いのか、あるいはどういった立場の人にどういうことを伝えたいのか、といったことを話し合う学習活動が位置付いています。より多様な学びというのを意識した構成となっています。

ですので、こういったことを比べてきたときに、日本文教出版は多様なものの見方、考え方に対して子どもたちの考えを深めていくという学習に対する配慮がよく工夫されているということから、日本文教出版が、御嵩町の子どもたちにとっても、より適していると考えられます。

以上です。

大変長時間に渡りありがとうございました。全体を通じて一言ずつご意見やご感想等々いただければと思います。田中委員からお願いいたします。

田中委員　検定を受けている教科書なので問題ないと思っていますが、どの教科書を選ぶのかという先生方の苦労はお話を聞いていてよくわかりました。今の教科書で、時代の流れでいろいろと変わっていて、絵でも車いすの子が載っていたり、肌の色が違う子が入っていたりとか、

そういうことも配慮している感じがしましたし、国語でネットのうわさに関することが挙げられていたり、算数ではプログラミングが入っていたり、音楽や図工ではＱＲコードを活用して授業が進められているのを感じましたし、全体の話もそうでしたが、今日は教育長の説明を聞いていてなるほどと思ったことがたくさんありました。

いずれにしても、選択する労力はかなりのものがあるということがよくわかりました。教科書の選定が透明化されているというのは素晴らしいことだと感じています。ありがとうございました。

山口委員　採択替えは４年に１回ということなので私は初めての経験になりますが、教育長にポイントを説明してもらって、画像を見ていてこちらの方が良いなと思うと、同じ方が採択されているという感じでした。教科書の中身で、関連して深堀りしていけるのが良いなと思っていて、例えば写真であったり、タブレットを使ってより深くわかりやすく仕組んであるような教科書が良いと思っていたら、だいたい同じものが選ばれていたので、自分の中では、良いなと思ったものが選ばれていました。

中瓦委員　本当に時代の変化で教科書もずいぶん変わるんだなというのが第一印象でした。その中でも、出版社によっても構成の仕方やどういう風に教えていくのかという工夫がそれぞれされているというのを思いながらも、より深く子どもたちに教えられるだろうし先生も教えやすいだろうなというのを採択されている感じがしました。もちろん自分が見てそこまでわかるかはわからないですが、説明を聞きながら、良い選択をされているんだろうというのを感じました。

より子どもたちが、自分たちがその先を考えられるような教科書の作り方にどんどんなっていっているという期待を感じました。

細野委員　若い頃に教科書を教えるのではなく教科書で教えるのだということを散々言われましたが、先生がしっかり教科書を奥まで理解して、どういう方法で教えたら良いかということを理解する力は必要だが、きりがないと思います。そういう力を求めることは必要ですが、どこまでそれを先生に要求していくのが良いのかわかりません。先生は勉強しなければいけないというのは本当に思います。

教科書は今の選択で十分だと思いますが、昔と比べて教科書が非常にきれいですね。図があり、写真があり、いろんな資料がついていて、大人が見ても楽しい教科書だと思っています。教科書を読むと下手な読み物よりもおもしろい。機会があればそういうのを私たちも見て、

中身を我々自身も勉強しなければならないというのを思いました。

教育長　ありがとうございます。
中学校教科書については、資料の3ページが可茂地区の採択原案になっています。中学校は今回は採択替えの年ではございません。これまで使用してきた教科書を令和6年度も引き続き継続して使用していくということでこの原案が示されております。
こちらの中学校の採択原案も、小学校の採択原案と併せて採択をとらせていただきます。

ではこれより採決を行います。議案第20号　令和6年度使用教科用図書の選定について　賛成の委員の挙手を求めます。

（挙手全員）

挙手全員のため、議案第20号　令和6年度使用教科用図書の選定について承認されました。ありがとうございました。